

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 2月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200635		
法人名	株式会社富山学園		
事業所名	グループホームほのぼの苑江波气象台入口		
所在地	〒730-0834 広島市中区江波二本松2丁目10番22号 (電話) 082-295-5575		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200635-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ほのぼの苑江波气象台入口は、江波山公園の麓に位置し、公園からは広島市内が一望でき、利用者様の散歩コースとして大好評の恵まれた立地条件にあります。
建物の中心に中庭を配し、リビングには年中暖かな陽射しと優しい風が行き渡り、時には中庭で育てた野菜が食卓に上がり、家庭的な雰囲気を醸し出しています。
苑ならではの行事にも力を入れ、時には地域の方に「フラダンス」や「手品」のボランティアにおいでいただき、利用者様の生活がメリハリのある毎日となるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域行事の秋祭り、千羽鶴の奉納、とんど祭りなどが盛んな地域であり、日常的に利用者地域との交流が図られていることで、地域の方に認知されているホームである。毎回の運営推進会議では、知見を有する人をゲストでお招きし、専門分野の助言などを頂くことでサービス向上に活かしている。目指すべき方針とコンセプトが明確で、同グループ全体のサービスに差異が無いように、ケアの標準化を図っている。職員同士が業務をフォローし合う体制を構築することで職員の定着率も高い。「利用者同士が仲良く過ごして頂けるように」という意識を持って、1日3回の申し送りでの話し合いを重ねることで利用者の想いを実現している。食事は3食手作りで、食の楽しみを充実させるために、ホーム菜園で取れた野菜など活用したり、年1回栄養分析を取り入れ季節感のある食材や彩りを工夫し、見た目にも美味しく栄養価も考慮した食事としている。

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の申し送り時、出勤職員全員で唱和し、常に「理念」を意識しながら日々の支援を行っている。	年明けの拝賀式には代表者から法人としての方針が打ち出されている。毎日の朝礼時に理念を唱和し、職員は意識する事が習慣となっている。日々のケアを実践する上での立ち返るべき原点としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、町内の一員として地域の行事にも参加させていただき、苑行事の折にはボランティアで手品やフラダンス等披露していただき日常的に交流している。	行事が盛んな地域で、江波あそび、とんど祭り、利用者が折った千羽鶴の奉納などで近隣住民との関わりを重ね、顔なじみの関係ができています。秋祭りには、ホーム目の前に神輿が訪れている。施設内行事では、敬老会など催し物の際には、ボランティアが来苑している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に数回「施設見学会」を開催し、地域の方々が気軽に来苑していただき相談を受けている。又、随時訪問される方や電話にも真摯に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には毎回「知見を有する人」をゲストでお招きし、それぞれの分野でのお話しを伺い、苑に於いてのサービスに役立てている。	毎回の運営推進会議では、知見を有する人（①薬剤師、②管理栄養士、③医師、④消防署職員、⑤警察官など）をゲストでお招きし、専門分野の助言など頂いている。年1回、各ユニット自慢を披露している。コロナ禍で現在は開催後に各メンバーに直接連絡し、意見・要望を聞く機会を設けている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方へ出席いただき、事業所の日々のサービス状況を報告し、アドバイスを頂き、より良い支援に生かしている。	主に介護支援専門員がパイプ役となって、市担当者とは相談・手続きなどで連携し、認定調査など協力関係を築いている。地域包括支援センター主催の会議など参加する事で、他事業所との情報交換の場となっている。認知症カフェ、いきいきサロンの案内や入居相談を受ける事がある。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い「身体拘束をしないケア」の意義を職員間で徹底周知している。 玄関の施錠に関しては、危険回避の為、施錠しているが、職員が付添い外出できるように努めている。	原則は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。毎月の身体拘束廃止委員会でのケース検討、11項目の確認など職員間で意識を高めている。玄関はオートロックを使用するが、自由と安全のバランスに考慮し使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	年間の職員研修会には「高齢者虐待防止法」を必ず行い、職員全員で学び、自分自身の介護を見つめ直し、「虐待」を見過ごすことがないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会を行い、「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」について学ぶ機会を設け、必要時にご家族様等へ提案し、制度への橋渡しができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際には十分時間をとり、内容を分かりやすく説明し、不安や疑問の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会の際に頂く当苑へのご意見や要望、また支援方法についてもご家族へ都度報告しながらその際にご意見やご要望をうかがい、日常のケアへ反映させ、サービスの質の向上に役立っている。	家族への電話連絡・面会時・ケアプランの更新時に意見や意向を聴くように努めている。意見があった時は、1日3回の申し送りなどで話し合い、早めの取り組みをしている。コロナ禍で面会自粛の中、リモート面会の要望が多いことから、環境を整え開始する準備を進めている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月行うスタッフ会議には、代表取締役社長、統括施設長が出席し、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。</p> <p>管理者は、普段から職員の意見や要望に耳を傾け、何でも話せる人間関係作りに努めている。</p>	<p>「職員が長く勤務して頂きたい」という会社方針により、毎月のスタッフ会議には代表者など参加し、適宜個人面談など意見や提案を聴きやすい機会を設けている。例えば、個々の職員の家庭環境に応じた勤務時間の調整、希望休の取り入れ、育児休業など取得しやすい環境を整えている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、管理者や職員の日々の努力・実績を把握し、給与や賞与に反映させ、職員の意識の向上を促している。また、育児休暇及び介護休暇を取得しやすい環境を整備し、休暇からの高い復職率を上げている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>代表者や管理者は職員一人ひとりのケアの力量を把握し、内外での研修を適切に受講できるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他のグループホーム事業者交流会とのネットワークも積極的に活用しながら、お互いのサービスの質の向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前、又は入所時には必ず本人様と時間をかけて面談を行い、ご家族様にも出来るだけ沢山の情報を頂くよう努め、本人様の思いを受け止め、安心・安全の環境確保に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族様の声にしっかりと向き合い、一緒に考えながら信頼関係を構築していく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様の「思い」が今行っているサービスで支援可能かを判断し、ほかのサービスも必要と見極めた場合、すみやかに対応する準備が出来ている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活を常に職員とともに過ごし、お互いの立場での協力、支えあいを通し、共に暮らす者同士と認識し合える関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃のご本人様の様子を常に報告するよう努め、入所された後も、ご本人様との距離が遠くならないよう、職員と共に支えている意識を持って頂くよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍で外出や面会には制限があるが、短時間で窓越しの面会など、できる範囲で支援させていただいている。</p>	<p>地元利用者が多く住み慣れた風景の中で暮らしが続いている。地域行事への参加、親しい方へ年賀状の送付、近くのスーパーへ買い物に行くことで馴染みの人や場所との関係が途切れないように、旧知の関係性を継続している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席が近い方同士が世間話をされたり、生活動作を共にされたりと日常生活の中で励まし合い支え合ってより良い人間関係を築いて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ入所された方にも、必要と思われる情報等提供し、本人様がどこにおられてもより良い環境で過ごされるようフォローに努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネだけが把握に努めるのではなく、職員全員がその方の思いを把握すべく努め、本人の思いを汲み取るよう努めている。	入居時の情報を参考に、生活歴や生活習慣を把握している。日々の関りや会話のなかで、意向や要望を受け止め、職員間で情報共有し、時間経過と共に新たな情報や想いを掘り起こし、本人主体の介護計画に活かしている。特に意思表示が難しい方に気配りし、何事も本人本位で物事を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所されるまでの生活歴や嗜好などセンター方式を導入して把握に努め、入所されてからの支援の基盤としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の本人様の状況を朝の申し送り時に職員全員で周知し、共有することにより本人様の現在の状況を正確に把握できている。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスやモニタリングなど随時必要に応じて利用しながら介護計画を作成し、本人様の望んでおられる生活の実現に努めている。	本人・家族の意向や要望を把握し、多様な視点から介護計画書を作成している。本人のニーズを3～4点ほど着目し、毎日モニタリング表で確認、気付きなど追記している。慣れ親しんだ場所で、ゆっくりと過ごせる、本人の達成感が味わえる要素のプランとなるように見直しを重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン実施記録用紙を作成し、日々の様子を個別記録に残し、職員間で共有することで統一したケアを提供することができ、次のケアプランの立案に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護保険サービスだけではなく、インフォーマルサービス・医療保険サービスなど活用できるサービスを都度考慮し、提供できるよう用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の方達との交流を深め、お互いの距離を近づけることにより、お互いの資源を協働し合える関係作りを構築している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	苑開設時よりかかりつけ医をお願いしている医療機関を持ち、その信頼関係により適切な医療を提供できる良好な関係作りが出来ている。	入居前からのかかりつけ医を継続できるが、殆どの利用者がホームの協力医がかかりつけ医である。月2回訪問診療、看護職員が配置、緊急時の対応など24時間連携体制がとられている。必要時は、歯科など往診を行い、協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日勤帯や夜勤帯での気付きを常に看護職員に伝える苑内での組織作りが出来ており、介護職と看護職との連携も取れ、適切な受診に常に繋げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人様の情報・ケアについての正確な情報を医療機関に提供し、長期入院となれば認知症の症状の悪化も予測される為、早目の退院を病院にお願いできるような関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化についての説明を行い、その時を迎えられた場合には、家族・医師・看護職員・介護士・ケアマネで十分に話し合い、方針を共有する。詳細な経過報告を行い、信頼を構築しながら実施している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や看取りの指針について説明している。看取りの経験もあり、希望があれば最後までホームで看取りを行う方針である。本人の症状と家族の意向を踏まえて、重度化した場合は改めて医師を交えて話し合い方針を決め、チームで共有し支援する体制がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>毎月行うスタッフ会議で職員研修として、対応の訓練を看護職員主導で行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>夜勤を行う職員には、「防災管理者」の取得を義務付けている。毎月1回の「消防訓練」や夜勤者による「夜間消防訓練」など行い職員の意識向上に努めている。</p>	<p>津波、水害が予測されるため、避難場所として、高台の公園があるが、救命胴衣を準備している。備蓄は5日間の非常食・水など取り揃え、災害食訓練を年1回実施し、防災意識を図る取り組みをしている。運営推進会議では消防署職員も参加し、何かあれば協力しあう関係作りが出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払い対応している。	年間計画に基づいて接遇研修を実施している。言葉遣いは日頃のこともあり、毎月のスタッフ会議で注意喚起している。出来る限り同性介護を行い、例えば、トイレの声掛けは本人に聞こえる程度で伝えるように、さりげない気配りや配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で職員と1対1になることができる散歩や入浴などは本人様の希望が表出しやすいので、きちんと受け止めるよう意識しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は介護を業務としてとらえるのではなく、お一人おひとりの体調や希望に寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人様のお好きな衣服を選んで頂いている。選べない方には職員が季節や調和などに気をつけながら選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や配膳などご一緒に行えるものは一緒に、又希望されるメニューも取り入れながら「食事」を楽しんでいる。ただでいいよう工夫している。	3食手作りで、ホーム菜園で取れた野菜(きゅうり、トマトなど)を食事に適宜活かしている。毎食の食事時間は決まっているが、朝食のみ本人の起床時間に合わせた柔軟な対応にしている。適宜、手作りおやつを取り入れ、買い物や調理、配膳など利用者と職員が共同で行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量と水分摂取量を記録し、その方に合った適切な量を提供できるようにしている。咀嚼・嚥下能力に合わせた食事形態や食事時間など工夫しながら残食されることがないように工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは必ず仕上げ磨きを行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に提携歯科医に往診にきていただき、口腔チェックしていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録表を作成し、それぞれの排泄パターンを把握することで排泄の自立を目指している。日中小まめにトイレ誘導することでパッドの使用数を減少させ、布パンツへ移行できるよう努めている。</p>	<p>排泄表を作成し、排泄の状況や間隔を全員が把握できるように誘導や介助を行っている。「自分で歩くこと、トイレに行くこと」に心掛けている。夜間のみポータブルトイレを活用する事もあるが、トイレで座ることを基本に職員間で話し合い工夫しながら自立支援の取り組みをしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘症の方へは、適度な運動や腹部マッサージなどを行い、自然排泄ができるよう努めている。食事でも食物繊維の多く含まれているものを必ず1品は入れるよう工夫しながら提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は心もゆったりとさせていただける貴重な場と考え、担当者ではできるだけ楽しい会話でくつろいだ気持ちになっただけできるよう配慮している。</p>	<p>週2回の午前浴、午後浴と本人の気分や体調に合わせて柔軟な対応をしている。ユニット毎に浴室環境が異なり、例えば、3方向介助ができるタイプがあり、本人の状態に応じて選定している。適宜、足浴や入浴後の保湿にも細かな配慮をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居されるまでの睡眠パターンを重視し、出来るだけ継続していただく。起床時間も各人の自由とし、一人ひとりのペースに合わせた支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報は職員間で情報共有し、副作用についても看護職員が情報の伝達をし、職員間で理解と共有ができています。本人の嚥下状態により、薬の形状も変更しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人にやりがいや喜びを感じて日々を送っていただけるように、また、生活の中での役割をもっといただいたり、気分転換を図っていただける場所を設けたりと、張りのある暮らしを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、苑外への散歩を日課とし、職員の運転でドライブに出かけることもあり、気分転換となっている。	桜名所で、お花見会ではホーム駐車場を活用して楽しんでいる。適宜、外食でお寿司、ファミリーレストランに出掛けている。日常的な外出支援がコロナ禍で困難な現状であるが、周辺の散歩、ドライブなど行っている。家族の協力で自宅に帰る、お墓参り、親戚に会うなど外出する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	時折、ご本人が食べたいと申し出られた物の買い物に出かける時は、付き添いのスタッフではなく、ご本人にレジで支払いをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば、電話の子機で電話をかけていただいている。手紙も自由にやり取りしていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>清潔を心がけ、共用の空間での不快な音や光、臭いなどに注意しながら支援している。中庭の草木に触れていただくことで、季節を感じ、居心地よく過ごしていただいている。</p>	<p>テーブル、ソファなどの角度の配置に工夫をしている。共有スペースは全体が見渡せるように配置し、中庭には花や野菜の栽培が行われ窓越しに季節を感じる空間としている。温度や湿度を気に向け、過ごしやすい環境を整えている。毎月のお花教室で利用者が生けた生花を飾っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>独りになりたいときは、無理強いせず、利用者様同士の団欒には、席を近づけたり、自由にしていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に使っておられた馴染みのものを持参いただき、「施設入居」を感じないで過ごせる室内を提供している。</p>	<p>スペースも広く居室の設営は利用者の状態に合わせて配置など検討している。自由に持ち込み可能であり、馴染みの家具や、仏壇、思い出の写真を飾って、居心地よく過ごせる工夫をしている。居室をより解り易くするために、居室入口の表札の大きさなど工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は独歩又は歩行器使用で自由に歩行ができる十分な広さがあり、トイレにはファンレストテーブルを設置し、安全で自立した排泄ができるよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目(さくらユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の申し送り時、出勤職員全員で唱和し、常に「理念」を意識しながら日々の支援を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、町内の一員として地域の行事にも参加させていただき、苑行事の折にはボランティアで手品やフラダンス等披露していただき日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に数回「施設見学会」を開催し、地域の方々が気軽に来苑していただき相談を受けている。又、随時訪問される方や電話にも真摯に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には毎回「知見を有する人」をゲストでお招きし、それぞれの分野でのお話しを伺い、苑に於いてのサービスに役立てている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方へ出席いただき、事業所の日々のサービス状況を報告し、アドバイスを頂き、より良い支援に生かしている。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い「身体拘束をしないケア」の意義を職員間で徹底周知している。 玄関の施錠に関しては、危険回避の為、施錠しているが、職員が付添い外出できるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間の職員研修会には「高齢者虐待防止法」を必ず行い、職員全員で学び、自分自身の介護を見つめ直し、「虐待」を見過ごすことがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会を行い、「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」について学ぶ機会を設け、必要時にご家族様等へ提案し、制度への橋渡しができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際には十分時間をとり、内容を分かりやすく説明し、不安や疑問の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会の際に頂く当苑へのご意見や要望、また支援方法についてもご家族へ都度報告しながらその際にご意見やご要望をうかがい、日常のケアへ反映させ、サービスの質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行うスタッフ会議には、代表取締役社長、統括施設長が出席し、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。 管理者は、普段から職員の意見や要望に耳を傾け、何でも話せる人間関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力・実績を把握し、給与や賞与に反映させ、職員の意識の向上を促している。また、育児休暇及び介護休暇を取得しやすい環境を整備し、休暇からの高い復職率を上げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は職員一人ひとりのケアの力量を把握し、内外での研修を適切に受講できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホーム事業者交流会とのネットワークも積極的に活用しながら、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前、又は入所時には必ず本人様と時間をかけて面談を行い、ご家族様にも出来るだけ沢山の情報を頂くよう努め、本人様の思いを受け止め、安心・安全の環境確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族様の声にしっかりと向き合い、一緒に考えながら信頼関係を構築していく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様の「思い」が今行っているサービスで支援可能かを判断し、ほかのサービスも必要と見極めた場合、すみやかに対応する準備が出来ている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活を常に職員とともに過ごし、お互いの立場での協力、支えあいを通し、共に暮らす者同士と認識し合える関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃のご本人様の様子を常に報告するよう努め、入所された後も、ご本人様との距離が遠くならないよう、職員と共に支えている意識を持って頂くよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍で外出や面会には制限があるが、短時間で窓越しの面会など、できる範囲で支援させていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席が近い方同士が世間話をされたり、生活動作を共にされたりと日常生活の中で励まし合い支え合ってより良い人間関係を築いて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ入所された方にも、必要と思われる情報等提供し、本人様がどこにおられてもより良い環境で過ごされるようフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネだけが把握に努めるのではなく、職員全員がその方の思いを把握すべく努め、本人の思いを汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所されるまでの生活歴や嗜好などセンター方式を導入して把握に努め、入所されてからの支援の基盤としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の本人様の状況を朝の申し送り時に職員全員で周知し、共有することにより本人様の現在の状況を正確に把握できている。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	カンファレンスやモニタリングなど随時必要に応じて利用しながら介護計画を作成し、本人様の望んでおられる生活の実現に努めている。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	ケアプラン実施記録用紙を作成し、日々の様子を個別記録に残し、職員間で共有することで統一したケアを提供することができ、次のケアプランの立案に役立てている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	介護保険サービスだけではなく、インフォーマルサービス・医療保険サービスなど活用できるサービスを都度考慮し、提供できるよう用意している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	日頃から地域の方達との交流を深め、お互いの距離を近づけることにより、お互いの資源を協働し合える関係作りを構築している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	苑開設時よりかかりつけ医をお願いしている医療機関を持ち、その信頼関係により適切な医療を提供できる良好な関係作りが出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日勤帯や夜勤帯での気付きを常に看護職員に伝える苑内での組織作りが出来ており、介護職と看護職との連携も取れ、適切な受診に常に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人様の情報・ケアについての正確な情報を医療機関に提供し、長期入院となれば認知症の症状の悪化も予測される為、早目の退院を病院にお願いできるような関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化についての説明を行い、その時を迎えられた場合には、家族・医師・看護職員・介護士・ケアマネで十分に話し合い、方針を共有する。詳細な経過報告を行い、信頼を構築しながら実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行うスタッフ会議で職員研修として、対応の訓練を看護職員主導で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜勤を行う職員には、「防災管理者」の取得を義務付けている。毎月1回の「消防訓練」や夜勤者による「夜間消防訓練」など行い職員の意識向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で職員と1対1になることができる散歩や入浴などは本人様の希望が表出しやすいので、きちんと受け止めるよう意識しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は介護を業務としてとらえるのではなく、お一人おひとりの体調や希望に寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人様のお好きな衣服を選んで頂いている。選べない方には職員が季節や調和などに気をつけながら選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や配膳など一緒に行えるものは一緒に、又希望されるメニューも取り入れながら「食事」を楽しんでいるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量と水分摂取量を記録し、その方に合った適切な量を提供できるようにしている。咀嚼・嚥下能力に合わせた食事形態や食事時間など工夫しながら残食されることがないように工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは必ず仕上げ磨きを行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に提携歯科医に往診にきていただき、口腔チェックしていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録表を作成し、それぞれの排泄パターンを把握することで排泄の自立を目指している。日中小まめにトイレ誘導することでパッドの使用数を減少させ、布パンツへ移行できるよう努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘症の方へは、適度な運動や腹部マッサージなどを行い、自然排泄ができるよう努めている。食事でも食物繊維の多く含まれているものを必ず1品は入れるよう工夫しながら提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は心もゆったりとさせていただける貴重な場と考え、担当者はできるだけ楽しい会話でくつろいだ気持ちにならせていただけるよう配慮している。</p>		

自己 評価	外部 評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居されるまでの睡眠パターンを重視し、出来るだけ継続していただく。起床時間も各人の自由とし、一人ひとりのペースに合わせた支援をおこなっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の情報は職員間で情報共有し、副作用についても看護職員が情報の伝達をし、職員間で理解と共有ができています。本人の嚥下状態により、薬の形状も変更しながら対応している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>お一人お一人にやりがいや喜びを感じて日々を送っていただけるように、また、生活の中での役割をもっといただいたり、気分転換を図っていただける場所を設けたりと、張りのある暮らしを提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、苑外への散歩を日課とし、職員の運転でドライブに出かけることもあり、気分転換となっている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>時折、ご本人が食べたいと申し出られた物の買い物に出かける時は、付き添いのスタッフではなく、ご本人にレジで支払いをしていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば、電話の子機で電話をかけていただいている。手紙も自由にやり取りしていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>清潔を心がけ、共用の空間での不快な音や光、臭いなどに注意しながら支援している。中庭の草木に触れていただくことで、季節を感じ、居心地よく過ごしていただいている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>独りになりたいときは、無理強いせず、利用者様同士の団欒には、席を近づけたり、自由にしていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に使っておられた馴染みのものを持参いただき、「施設入居」を感じないで過ごせる室内を提供している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は独歩又は歩行器使用で自由に歩行ができる十分な広さがあり、トイレにはファンレストテーブルを設置し、安全で自立した排泄ができるよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目(もみじユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑江波气象台入口

作成日 令和3年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束について、毎月のスタッフ会議の資料に添付されていない。	毎月のスタッフ会議資料であらためて報告する事で、今後も身体拘束がないようにする。	11項目チェックした結果をスタッフ会議の資料に追加し、あらためて職員に報告していく。	次回スタッフ会議 (4月以内)
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。